

Book

図書の缶詰

図書館からおすすめの本をご紹介します
 鮫川村図書館（村歴史民俗資料館内）
 ☎ 49-3106

展示会まだ準備中

（山本幸久著、中央公論新社）

学生時代は応援団だったという変わり種的美術館学芸員「今田弾吉」。個性豊かな先輩たちにこき使われ、目の前の仕事に追われる日々を送っていた。しかし、あることから弾吉の心に何かのスイッチが入ったのだった。

もりのかくれんぼう

（末吉暁子著、偕成社）

近道しようとしたケイコは見たことのない森の中へ入ってしまった。「もりのかくれんぼう」という男の子と出会い、動物たちとかくれんぼうをすることに。森の中には楽しいかくし絵がいっぱい描かれている。

第3土曜日は 家族一緒に読書の日



鮫川村ふるさとネットワーク委員会

参加団体9団体

毎年、ゴールデンウィークに村内数カ所にイベント会場を設けて開催している「鮫川ふるさと春まつり」。平成九年から催され、これまでに十五回を数えます。村内外から多くの人が集まり、ゴールデンウィークの恒例行事として親しまれています。

この春まつりの企画運営を行うのが「鮫川村ふるさとネットワーク委員会」。村内の任意団体などで構成し、団体間の情報交換や連携、ネットワークを形成するとともに、交流事業などにより地域活性化を推進することを目的としています。

平成二十五年度は、五月三日から五日までの三日間の開催が決定。団体ごとに趣向を凝らしたイベントを企画していますので、ぜひお出かけください。

今年も開催決定「鮫川ふるさと春まつり」

さがわを 彩る集い 10

新しいことが始まる時期です。季節を感じとれる環境で仕事をしている私は、季節の変化を植物や動物で知ります。

昨年は、満開のさくらに雪が舞いきれいな光景を見ることができ、雪の恩恵と煩わしさを大いに感じました。

「かどぐじ」の長い我が家では雪掃きがすごく大変ですが、息子たちは積極的に手伝ってくれます。五人で二時間以上かかることもありますが、雪のない道路は気持ちいいものです。小中高校生の息子たちは私より頑張って掃いてくれるので、子どもの成長を頼もしく感じます。

村民【随想】リレー — ①77

藤田芳明さん

冬から春に

雪が積もると子どもたちをスキー場に連れて行き一緒に滑るのが楽しみの一つで、冬の家族行事となっています。兄二人は私の指導の下、スノーボードを始めました。今季は、スキー場の天候にあまり恵まれず、チャレンジスクールで帰りは吹雪に巻き込まれましたが、とても楽しい思い出ができました。部活や仕事のためスキー場になかなか行けませんが、春になったら山菜を探しに出かけたいです。

次は鈴木章弘さん（赤坂東野字蔵ノ草）にバトンタッチ！



ふじた・よしあき ● 昭和43年11月生まれ。赤坂西野字岡田在住。水啓木材（株）（古殿町）勤務。趣味はウィンタースポーツ。「笑いが一番」を心掛けている。

YOSHIAKI FUJITA

俳句

紅梅やきょうだい遊ぶ花見山 中井 恒幸
 雪曇り除染処理場定まらず 松本 精一
 けがのネコひざに抱きて春を待つ 黒田 寿香
 朝起きて窓を開けると銀世界 小松ハルエ
 うめさくやなこそフクシマなわすれ 土 竜庵
 指編みを教えてくれたお茶目な子 斎須 信子
 息白く朝練の子ら駆けぬける 鈴木 米子
 雪解けを待ちて切り枝片付ける 北條素人坂
 酒蔵の頒布案内四温かな 山本 恵子
 孫が舞う扇の手さばき一文字 前田 縫子
 めくれば三月陽光も風も柔らかし 山本五十鈴

短歌

避難所は古里ですという老婆「故郷」を唄う目を潤ませて 鈴木イミ子
 どうでもいいうような人が選ばれて組織という名の恐ろしさを知る 前田 初
 老クなる研修旅行に参加して華やぐ日々は若返りたり 佐藤 春枝
 燕にはつばめの言葉飛来してしきりに鳴くは挨拶ならむ 矢吹 定子
 春という季節の重み寒き風吹けども木々の芽は膨らみて 須藤 幸子
 わが作る物の味わい一しおに温さに匂う 冬の食卓 水野 珠子
 人影を幹に重ねて夕闇の訪れ早しものの寂しさ 関根 瑞恵

運命という人生も否定せず仰げば白し 冬の三日月 満井 清乃
 寒さ等吹き飛ばしたな若き日は今は茶の間に浸りいるのみ 坂本 伊紀
 覚え来る恩義の一つ今日も又灯に点す「報徳」の文字 一 平子
 仄かなる春の陽を受け照り映える夫手入れせし庭の黒松 石井 幸子
 日溜まりにすみれ可憐な花開き我に囁く春が来たよと 須藤シツエ
 偽政者がいかにあやつる列島を内外多難な荒波の中 松本 一郎
 今更に悔やむ骨折不注意の畳の上にも思わぬ事故あり 前田喜三子
 主亡きステック部屋の片隅にひそと立てある今日も動かず 藤田千代子
 移り行く季節を払う風荒れて雨音はげし春のあさなり 関根ハナヨ
 春一番吹けば里野は賑やかな小鳥さえずり小枝に飛び交う 関根 富久
 幼児バス目がけて走る子等の声テシヨン高く春告げるがに 鷺野谷 満
 春一番吹く風やわく吾が頬をなぞりて過ぎぬ庭に立つ日の 板橋 源良
 夫逝きて三年過ぎたるこの冬も夫焚きくれし炭に温もる 関根キヌ子
 何年ぶり万年筆のインクの香り小刻みの文字もなぜか懐かし 矢吹 一二
 雪残る川辺に芽吹く猫柳色やわらかに流れに映える 北條 平

若者の広場 No.100

Young Plaza

■今、夢中になっていることは何ですか？

夢中になっているというより、今は生まれてくる子どものことばかり考えていますね。休日などはベビー服や哺乳瓶などのベビー用品を見てまわっています。

■これから新たにやってみたいことや目標はありますか？

これから母親になるので、あまり厳しくせず優しく子どもに接することができる母親になりたいです。子どもは元気に育ってくれば、それでいいです。

■村に住んでいて感じることや現在の村について思うことはありますか？

道が悪い所があったり、携帯電話の電波が入りにくかったり、コンビニがなかったりと不便に思います。でも、豊かな自然は鮫川村の良いところだと思います。

■これからの鮫川村に望むことはありますか？

もっと若い人が増えてほしいです。自然もあってイベントも一生懸命やっているのにもったいないと思います。誰でも入れるアパートや働く場所、お店ができるといいと思います。

次は溝井明菜さん（赤坂東野字大竹在住）の予定です。

若い人が集まるような村に

矢吹由香さん



やぶき・ゆか
平成3年8月25日生まれ 21歳
A型 おとめ座
趣味は料理、お菓子作り
赤坂東野字通ヶ電在住

退 職後、「何か趣味を持とう」と思い友人に勧められたことがきっかけで「クレイクラフト（粘土工芸）」に出会ったという高杉タカ子さん。石川町にある教室に通い始めて二年になります。

「最初は、不器用な私にできるかなと思いましたが、始めたら楽しくて仕方ありません。生活空間に自分で作ったものを飾れることがとても幸せに感じます」と笑顔で話します。

「一枚として同じ花びらや葉はないので、微妙な濃淡を付けたります。この色かけ作業で作る人の感性が出ると思います。形や彩りで自分の感性を表現できるのが魅力の一つですね」

後々は鮫川村で教室を開きたいと考えているタカ子さん。「みんなが作品づくりを楽しみたいです」と話してくれました。



大きな作品を作ることが好きというタカ子さん。部屋を華やかに彩ります

私たちの名人・達人 Vol.9

クレイクラフト名人 高杉タカ子さん

たかすぎ・たかこ／赤坂東野字大竹在住／67歳

形や彩りで感性を表現
生活空間に作品を飾れることが幸せ



花びらを1枚1枚作り、それらを重ね合わせて1つの花を作っていきます

学校だより

(102)

鮫川中学校編

生徒会総会で活発な質疑応答

生徒会総会は二月二十五日に行われ、生徒会会計決算報告および予算案、各委員会や部活動の報告や提案、質疑・応答を経て採決がありました。質問する生徒もたくさんいて、さらに充実した学校生活を送るための意識を持つきっかけとなりました。



生徒会総会

卒業生による記念植樹

二月二十八日に館山公園に桜の苗木を植樹しました。郷土意識や地域社



クラスごとに植樹をした生徒たち

第66回卒業証書授与式 34人が学び舎をあとに

会との連帯感、植樹した花木の成長を通して、自己の成長を振り返ることをねらいとしています。二十年後、三十年後にどのような花を咲かせてくれるのか楽しみです。



全校生による式歌

三月十三日、卒業式は一面式の厳粛な中で行われ、三十四人が学び舎を巣立ちました。式では、在校生を代表して新生徒会長の須藤康太さんが送辞を述べました。感謝の気持ちや明るい希望、伝統を受け継ぎ、新たな鮫川中学校の栄光への懸け橋となる決意を抱かせてくれる内容でした。それに對して、卒業生を代表し芳賀悠介さんが答辞を述べました。

(文・写真／鮫川中学校)